

## 治安情報 2009 年第 2 四半期報告書

対象地域	フランス リヨン (及びローヌアルプ地方)	在リヨン出張駐在官事務所 リヨン日本人会治安情報収集チーム	
		作成日	対象期間
調査方法 新聞 サイト	Le Progrès 他 仏内務省HP	<b>2009 年 6 月 30 日</b>	<b>2009 年 4 月～6 月</b>
集計情報の流布	未	在留邦人対象に各団体及び在リヨン出張駐在官事務所ルート	
調査項目：			

### 特集 日頃の心構えが最良の方法

#### I. 空き巣対策

#### II. 引ったくり、暴力

### はじめに

外的暴力から身を守るのは自分しかいない、という気持ちで日頃から気をつけておくことが大切です。夏季はフランス以外の国への旅行などの多い季節であり、渡航先の治安は、外務省の海外安全HP（<http://www.anzen.mofa.go.jp/>）および<http://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/>）、厚生省の感染症情報（<http://www.forth.go.jp/>）から事前にチェックしておきましょう。また、大手の旅行社のサイトなどには、旅行中の注意事項として各地の細かな情報を提供しているところもありますので、利用するのもいいでしょう。旅行中の盗難や不意の出来事は、対処も面倒な上、せっかくの旅行が台無しになりかねませんので日頃からの注意が必要です。

日本人は一般に弱点が多いと言われていますが、対人関係で知らない相手がすぐ近くまで接近してきてもそれを許してしまう傾向があることが、そのひとつとして挙げられます。相手は、親近感を得ることが詐欺行為に有効であると考えて近づいてくることもあります。また、彼らは私たちの心をくすぐる方法で、警戒心を解かせて、油断させる方法を心得てもいます。

しかし最近では、犠牲者が日本人の場合に限らず、そのような巧妙さよりも、手口がよりダイレクトで暴力的であるケースが多くなっています。特に携帯電話を奪うケースが増えていますが、小型で音楽なども聞けるという高機能・高級化がそれに拍車をかけているようです。人前での使用は控えめにしましょう。

## I. 空き巣対策に関する情報

空き巣は犯行に及ぶ前に下見に訪れると言われています。

下見に来られたような事前のサインが見えたら、特に注意が必要です。例えば偽の勧誘、電話で不在を確かめる、人の後を付けるなどがあげられます。

在宅中に開いている窓から侵入したりする大胆な手口も最近では増えていますが、多くの場合、不在時を狙ってやってきます。不在にする前に日常から以下のような点を注意しましょう。

基本的な防護策は以下の通りです（一部はフランス内務省のホームページから抜粋）：

1. 認証をうけている型式の錠が入口のドアに設置されていること。覗き穴、内側からチェーン、あるいは防犯カメラなどがあるとより効果的です。
2. 手の届きやすいところにあるドアや窓のガラス部分に、よろい戸、金属製の格子があること。防犯アラームは侵入者の撃退に有効です。
3. 在宅時にも内側から鍵をかけておく。
4. 偽の勧誘、あるいは身分を偽った訪問に気をつけること。EDF-GDF（電気、ガス）、郵便配達、あるいは偽の警察などが過去に散見される犯行例です。身分証明書を要求し、場合によっては電話で確認しましょう。また、制服を着ていても身分証明書を確認しましょう。特に偽の身分を名乗る二人組みなどには気をつけましょう。注意をそらしている間に、盗みを働く場合があります。
5. 配達その他、自宅での各種のサービスを提供する勧誘に注意。（販売員の場合、文書に署名する場合に十分に注意すること。不明なものにはサインしない。購入のサインをした場合は、7日間の間にそれを取消することができます。）
6. 鍵束には住所や名前を記入しておかないこと。
7. 鍵を入り口近くの場所（マット下、郵便受け）に隠さないこと。
8. 合鍵は十分に信頼のおける人に預けること。
9. 鍵をなくした場合は、合鍵からコピーを作るのではなく、錠を取り替えること。
10. 定期的な不在の時間帯を狙うケースが多い。
11. 短時間の外出の際にも（ごみ捨て等）必ず戸締りをしてドアの鍵をかけること。
12. 貴金属などは確かな場所に保管すること。（隠し場所として衣類の間に隠すのが最も良く知られています）
13. 空き巣の下見後に、サインペンやチョークなどで場所に目印をつける場合があります。もし妙なサインを床や壁に見つけた場合は、写真を撮ってから消し、警察に届けること。
14. 保険補償金額が実際の財産の金額と釣り合いが取れているか確認すること。
15. 高価なものに限らず重要なものは写真を撮り、鑑定士に鑑定してもらっておき書類を保存しておくこと。高価な家具や宝石類などの写真を撮る場合、全体が写っ

ている、あるいは複数の側から撮っておくこと。また文章で特徴をメモしておくのも良いでしょう。メモや写真を物品とは別の場所に保管しておきましょう。コンピュータあるいはCDなどに保管しておけば、万一の場合に迅速に警察に連絡することも可能です。フランスの盗難物品の写真などのデータベースは、TREIMAに保管されています。TREIMAは内務省管轄の **Office Central de lutte contre le trafic des Biens Culturels (OCBC)** 「文化財産不正取引取締り局」が管理している。サイト：ビデオあり：

[http://videos.alliancepn.fr/videos/office\\_central\\_lutte\\_trafic\\_biens\\_culturels.php](http://videos.alliancepn.fr/videos/office_central_lutte_trafic_biens_culturels.php)

16. 財産に関するすべての請求書、支払いの証明を保管しておくこと。
17. 留守にする旨を、近所の人や管理人に伝えておくこと。そのためにも日頃から最低限の近所付き合いが必要でしょう。
18. 警察署に留守にする期間を前もって知らせておくと、定期的に見回りに来てくれることもあります。
19. 家が留守であることを見せないように、信頼の置ける人に時々窓を開けてもらったりするのも有効です。あるいは時間帯で点灯する装置などを利用するのも良いでしょう。
20. 郵便物などがたまらないように、信頼のできる隣人に定期的に取りってもらいましょう。
21. 留守番電話の応答メッセージや、メールの自動返信などに、留守にする期間などは書かない方が賢明でしょう。電話は別の番号に転送することが望ましいです。

空き巣の被害に遭ったら、ただちに警察に連絡して被害届けを出しましょう。被害の証拠のなどの問題があるので、被害現場はそのままにしておく方が賢明です。その後、被害後数日以内に、警察の被害届けを用いて書留郵便で保険会社に被害を報告しなくてはなりません。

銀行の小切手やカードなどについては即座に、OPPOSITION（使用差止め）を電話で行い、即時に銀行などの金融機関に連絡します。使用差止めが遅れた場合には、犯人が例えばカードを使って買い物をしたりした場合、被害額が自己負担になる場合もありますので注意しましょう。

## II. ひったくり、暴力による奪い取り

ハンドバックをバイクに乗った連中に奪い取られるという事件は以前からありましたが、最近多発しているのは、路上で携帯電話を奪い取るというケースです。

何らかの形で犯人は犠牲者の持ち物が目に付いたかのかもしれません。歩いている時にかかってきた電話には応える必要もあるでしょうが、IPODのような高級機を持っている場合はできるだけ控えめに使用するほうが賢明でしょう。最近の手口はダイレクトで、

第三者がいても無視して奪い取ることもあります。6月の報告にもありますが、パリからリヨンまでのTGV内で起きたケースなどは、犯人はリヨン到着時に逮捕されており、衝動的な行動から起こった事件であることは想像できます。もしそのような事件に遭遇したら抵抗しないことも肝要です。

携帯電話のほかによく狙われているのは、ウォークマンのような類の携帯型の音楽を聴く装置です。

[http://www.anzen.mofa.go.jp/info/info4\\_S.asp?id=170](http://www.anzen.mofa.go.jp/info/info4_S.asp?id=170)

上記の外務省の海外安全ホームページにも、フランスでの様々な被害ケースが網羅されていますのでご参照ください。

リヨンの場合、空き巣以外の強奪や暴力を伴ったひったくりは、場所がある程度限定されています。主要地域は、ヴィルールバンヌ、ヴェニシュー、ブロン、8区、3区、リュールRilleux、ヴォー・アン・ヴランなどリヨン東北部で、全体の過半数を占めています。もちろん2区の繁華街でも頻繁に起きています。携帯電話を奪い取るケースなどは、日中に発生していますが、深夜や早朝に被害にあうケースも見られ、可能な限り夜間の外出は避けた方が無難でしょう。

ペラッシュ駅やカルノー広場の例をあげれば、夕刻から東欧系の移民とおぼしき人々が数十名集まってビールを飲んで大声で騒ぎ立てることが日常的になっています。深夜になると酔っ払いも増えますので、こういった地域を夜間出歩くことは避けたほうが賢明です。

以下は、フランス内務省ホームページのアドバイスです：

1. 身分証明書、カード、財布、鍵など、できるだけ異なるポケットに分けて入れておく。万が一のときにも一度にそっくり盗まれることはない。
2. 現金をキャッシャーや銀行で引き出した場合、できるだけ現金が他人の目に付かないようにする。
3. 歩道を歩くときは、できるだけ車と対向する側の歩道を歩き、鞆などは車道側ではない側にて持つようにする。
4. 人につけられている、あるいは追いかけていると感じた場合、人の多い場所、あるいは他の人に助けを求める。
5. 混雑する場所では特に注意が必要。体をぶつけられたりした場合には所持品がすり取られていないか確認する。
6. 携帯電話の盗難が多発している。路上や公共の場所で使用する場合、注意が必要。使用していないときは、手に持たず、確かな場所にしまっておくこと。
7. 他人から暴力、盗難、攻撃を受けた場合は、抵抗しないこと。できるだけ大声で

助けを呼ぶ。「Au secours ! オー・スクール！！」

8. 犯人の特徴、車の番号などを書き留める、あるいは写真に撮る。

### 終わりに

普段の生活においても様々な落とし穴があることを忘れずに、かといって被害妄想過多になる必要もありませんが、日頃からこのような犯罪があるということを心にとめておき、適度の外出を楽しむことが大切でしょう。